

定常流星群は活発な活動

例によって10月は表1の観測量で表2の結果でした。50時間くらいの観測量だとけっこうな活動が捉えられます。これも長く続けられるひとつの指標になります。

オリオン座流星群は天候にも恵まれて極大期から後半が月末まで観測できました。大出現とは言えないもののHR5超(傘なし小雨級)の第一種流星群にふさわしい活動です。

おうし座流星群も活発で、南北どちらも競い合うようにHR3程度で見てても飽きないのが嬉しいです。しかし火球クラスのもの1夜当り3個は超えません。来月が楽しみです。

出現数は少ないが存在価値を発揮した流星群

野球で言えば味のある代打でしょうか。レギュラーでないから毎年見ることは出来ません。順に特徴を述べていきます。

No.479,SOO 9月オリオン座 α 流星群。名前に反して9月にはノミネートされても音沙汰なしでしたが、10月1/2に活動したので筆者は速痕の性質が第一級のオリオン群の初期活動ではないかと上田昌良さんに照会したくらいです。別表、第二級流星群参照。

No.417,ETT おうし座 η 流星群。みかけの速さが少し速い流星で、最初は速い流星が第一級のおうし群に含まれているのではと同報に投稿したところ、前田幸治氏から散在流星ではないかと指摘を受けたものです{nms01882}。散在流星ではないがそうに思われるほどマイナーな流星群でした。

No.836,ODS 10月ろくぶんぎ座 δ 流星群。明け方5時前後に続けて出現しましたが、場所は放射点から遥か遠い星座でした。みかけの速さはVRで延長は南東の空だったので、うみへび頭部かその近辺と思ってこれもMLに投稿しました{NMS01863}。後日調べてみたらこの流星群ではなかろうかと思った次第です。

No.776,OAP 10月らしんばん座 α 流星群。下旬の28/29,29/30に1個ずつだが特徴のある流星が南から天頂に来ます。しかし長時間観測して気づく程度の散在レベルの群なので簡単に捉えられると思うのは危険です。赤緯が -30° (例えばおおいぬ座の三角星)より南の流星群は短い観測時間ではまず見えないと肝にめいじて下さい。南半球で実績があってもです。

